

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	2-2-2	2-4-3	事業名	子どもや若者の健康に関する知識の普及啓発
担当	保健福祉局健康衛生部地域保健課 林 211-2306			
全体計画（当初）				
事業内容	1 思春期ヘルスケア事業 母子保健と学校教育の連携により、児童・生徒が生涯を通じて自らの健康問題を主体的に解決できる能力を育てる。 (1) 授業支援事業：保健センターの専門職が、授業の一環として生命誕生等についての健康教育を行う。(2) ふれあい体験学習事業：保健センターにおける各種母子保健事業の機会を活用し、乳幼児とのふれあいや妊婦体験等を含めた体験学習を実施する。(3) 思春期ヘルスケア事業推進懇談会：保健・医療・福祉・教育の関係者による懇談会を開催し、関係機関の連携や正しい知識の普及・啓発方法等について意見を聞く。		<年度別の事業内容> 平成16年度 思春期ヘルスケア事業：左記事業の推進 平成17年度 思春期ヘルスケア事業：左記事業のほか、教諭・養護教諭と保健センター職員との合同研修及び各区において思春期関係研修会を開催する。 保健と医療の連携による性に関する相談事業：検討会の設置、保健指導体制の整備、普及啓発、職員研修の実施 平成18年度 両事業とも前年度事業内容の推進	
	2 保健と医療の連携による性に関する相談事業 10～20代の人工妊娠中絶率・性感染症罹患率を低下させるため、医療機関と行政の連携により、正しい避妊方法や性感染症予防のための効果的な指導を行う。 (1) 検討会の設置：保健・医療等の代表者からなる検討会を設置し、効果的な指導体制について検討する。(2) 保健指導体制の整備：医療機関と保健センターの連携による保健指導体制を確立する。(3) 普及啓発：学生・市民団体等との協働により、正しい避妊方法や性感染症の予防と保健指導事業に関する普及啓発を行う。(4) 職員研修の実施			
事業内容（量・場所・規模等）	平成16年度事業内容（決算）		平成17年度事業内容（決算）	
	1 思春期ヘルスケア事業 (1) 授業支援事業 小学校 18校 33回 2,218人 中学校 16校 31回 4,381人 高等学校 14校 18回 4,502人 (2) ふれあい体験学習事業 中学校 4校 4回 50人 高等学校 1校 1回 24人 2 保健と医療の連携による性に関する相談事業 (1) 検討委員会の設置 学識経験者、医師会、産婦人科医会、泌尿器科医会、助産師職能等の代表者からなる検討会を設置し、効果的な指導体制について検討を行った。 (2) 保健指導体制の整備 医療機関（市内産科・婦人科、泌尿器科 162か所）と保健センターの連携による人工妊娠中絶、性感染症罹患の反復防止に関する保健指導体制を構築（平成17年4月事業開始） (3) 普及啓発 ・ 中・高校生の保護者への普及啓発 18校 2,327人 ・ 健康さっぽろ21ホームページ及び携帯サイトにおいて、人工妊娠中絶、性感染症の予防に関する情報提供		1 思春期ヘルスケア事業 (1) 授業支援事業 小学校 25校 45回 3,014人 中学校 23校 50回 7,840人 高等学校 17校 21回 4,366人 (2) ふれあい体験学習事業 小学校 1校 1回 25人 中学校 1校 1回 18人 (3) 思春期ヘルスケア事業推進懇談会等の開催 推進懇談会（1回）関係者会議（2回）プロジェクト会議（3回）事業のあり方や関係機関の連携の推進、効率的・効果的な実施方法について検討を行った。 2 保健と医療の連携による性に関する相談事業 (1) 検討委員会の開催（1回） (2) 人工妊娠中絶・性感染症の予防に関する保健指導の実施 医療機関による指導・相談 7,712件 保健センターによる相談 107件 (3) 普及啓発 大学・専門学校の生徒及び児童・生徒の保護者等への普及啓発 24回 2,128人 (4) 職員研修の実施（1回）参加者 62名	
事業内容（量・場所・規模等）	平成18年度事業内容（決算）		評価（成果）	
	1 思春期ヘルスケア事業 (1) 授業支援事業 小学校 25校 38回 2,446人 中学校 23校 38回 6,836人 高等学校 18校 21回 6,450人 (2) ふれあい体験学習事業 中学校 1校 2回 24人 対象学年・実施テーマを絞る等の実施方法を一部変更 2 保健と医療の連携による性に関する相談事業 (1) 人工妊娠中絶・性感染症の予防に関する保健指導の実施 医療機関による指導・相談 7,071件 保健センターによる相談 125件 (2) 普及啓発 大学・専門学校の生徒及び児童・生徒の保護者等への普及啓発 36回 2,791人 (3) 職員研修の実施（1回）参加者 41名		思春期ヘルスケア事業では、年々実施校、実施回数が増え、授業を受けた児童・生徒の95%以上が「理解できた」と回答しており、また事業実施校を対象に行った調査においても、事業利用後の児童・生徒の変化として「命の大切さについて理解が深まった」「自分の健康について関心が高まった」とほとんどの学校が回答するなど、事業の目的である健康の保持増進に関する正しい知識の普及啓発が図られている。 また、人工妊娠中絶や性感染症の予防について、医療機関及び保健センターにおいて個別に保健指導・相談を実施することにより、一次予防及び反復予防に対する知識の普及啓発が充実された。	
19年度以降の方向性・事業の予定				
1 思春期ヘルスケア事業 H18年度と同様の実施 （平成18年度から対象学年・実施テーマを絞る等の実施方法を変更しており、平成21年度に再度検討を行う） 2 保健と医療の連携による性に関する相談事業 H18年度と同様の実施（保健センターにおける「若者の性の健康相談」「若者の性の電話相談」、医療機関における人工妊娠中絶・性感染症罹患の反復防止に関する指導・相談の推進）				

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書（単位：千円）

施策体系コード	2-2-2	2-4-3		事業名	子どもや若者の健康に関する知識の普及啓発	
---------	-------	-------	--	-----	----------------------	--

事業費の推移

項目		16年度	17年度	18年度	計	進捗率(%)
計画	事業費	4,275	11,130	10,595	26,000	-
	財源	0	6,767	6,233	13,000	-
	内	0	0	0	0	-
	市債	0	0	0	0	-
	その他	0	0	0	0	-
実績	事業費	2,442	3,828	3,137	9,407	36.2
	財源	2,442	3,033	1,568	7,043	-
	内	0	0	0	0	-
	市債	0	0	0	0	-
	その他	0	0	0	0	-
内	0	795	1,569	2,364	-	
一般財源	0	795	1,569	2,364	-	

計画との差異（予算・事業内容・規模・時期等）

[全体][16年度][17年度][18年度]  
 2 保健と医療の連携による性に関する相談事業  
 時間外手当、報償費、需用費の削減を図ったため、予算額を減額している。

主な施設、サービス等の整備水準

項目	15年度末 (現状)	16年度末 (実績)	17年度末 (実績)	18年度末 (実績)	18年度末 (目標)

関連予算事業内訳

予算事業名(小事業名)	経・臨	枠内外	16年度	17年度	18年度	計
思春期ヘルスケア事業費	経常	枠内	2,442	1,589	1,311	5,342
若者の健康に関する知識の普及啓発事業費	臨時	枠外		2,239	1,826	4,065
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
計			2,442	3,828	3,137	9,407